

平成 23 年度 新人看護職員研修（公開研修）

平成 23 年度 新人看護師職員研修を公開研修にしております。
 昨年 4 月から、厚生労働省の新人看護職員ガイドラインに基づいたプログラムで研修を行っています。
 看護職の方であれば、新人さん以外の方でも、どなたでも参加可能です。
 一コマずつの参加も可能です。時間・内容などお気軽にお問い合わせください。

4月2日（土）

テーマ	内容
感染予防技術（標準予防策など）	①スタンダードプリコーション（標準予防策）の実施
	②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択
	④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い
	⑤針刺し事故防止対策の実施と針刺し事故後の対応



4月4日（月）

テーマ	内容
看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する
	②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する
	③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する
	②病院及び看護部の組織と機能について理解する
	③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する
	④同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる
目標管理	
安全管理	①施設における医療安全管理体制について理解する
	②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行う
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する
	②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する
	③患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る
	④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する
	⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する
	⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する
生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける
	②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する
	③学習の成果を自らの看護実践に活用する
安全確保の技術	①誤薬防止の手順に沿った与薬
	②患者誤認防止策の実施
	③転倒転落防止策の実施
災害・防災管理	①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等）には決められた初期行動を円滑に実施する
	②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する
業務管理	①業務の基準・手順に沿って実施する
	②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する
	③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う
	④決められた業務を時間内に実施できるように調整する
物品管理	①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う
	②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う
コスト管理	①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する
	②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する

4月5日（火）

テーマ	内容
情報管理	①施設内の医療情報に関する規定を理解する
	②患者等に対し、適切な情報提供を行う
	③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う
	④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する
フォーカスチャータリング	
排泄援助技術	①自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。）
	②浣腸
	③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理
	④摘便
	⑤導尿
環境調整技術	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整（例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）
	②ベッドメイキング（例：臥床患者のベッドメイキング）
食事援助技術	①食生活支援
	②食事介助（例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）
呼吸・循環を整える技術	①酸素吸入療法
	②吸引（気管内、口腔内、鼻腔内）
	③ネブライザーの実施
	④体温調整
	⑤体位ドレナージ
感染予防技術	③無菌操作の実施
	⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択
活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送
	②体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施）
	③関節可動域訓練・廃用性症候群予防
	④入眠・睡眠への援助
	⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助（例：不穩、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助）
清潔・衣生活援助技術（例：①から⑥について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施）	①清拭
	②洗髪
	③口腔ケア
	④入浴介助
	⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換
	⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容



4月6日（水）

テーマ	内容
看護必要度	
症状・生体機能管理技術	①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧）の観察と解釈
	②身体計測
	④動脈血採血の準備と検体の取り扱い
	⑧パルスオキシメーターによる測定
	⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い
	⑥血糖値測定と検体の取扱い
症状・生体機能管理技術	③静脈血採血と検体の取扱い
与薬の技術（講義）	②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射



- ③静脈内注射、点滴静脈内注射
- ④中心静脈内注射の準備・介助・管理

4月7日(木)



テーマ	内容
与薬の技術(演習)	②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射
	③静脈内注射、点滴静脈内注射
	④中心静脈内注射の準備・介助・管理
ME 機器について	⑤輸液ポンプ・シリンジポンプの準備と管理
与薬の技術	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬
	⑦抗生物質の用法と副作用の観察
	⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察
オーダーリング	①オーダーリングとは
	②オーダーリング基本操作
	③看護支援システム

4月16日(土)

テーマ	内容
症状・生体機能管理技術	⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理
食事援助技術	③胃管挿入
	③経管栄養法

